
ホットニュース(平成17年度／第87号)

●今月の業界ホットニュース／江戸・東京のまちづくり

丸の内オアゾの丸善に行って驚いた。地図・ガイドの売り場に、江戸・東京コーナーという一角があり、書棚4列が関連図書で埋まっており、軽く5、6百冊はありそうだ。現代東京のガイドもむろん多いが、江戸のまちあるきとか江戸歴史散歩とか江戸をラップさせた本の数も夥しい。この種の本が出始めた頃よく手にとって見ていた。つい最近のことだと思っていたが、こんなに氾濫しているとは思っていなかった。このコーナーで、一冊ずつ目次を見てパラパラと写真や図面を見るだけで、一日かかりそうである。近年、都内でも中高年のまちあるきグループをよく見かけるが、一種のブームとも言えよう。

今、東京都は国際観光都市を標榜し、都市観光づくりに力を入れ始めているようだ。都市観光の魅力の一つは、その都市の持つ歴史的な雰囲気を感じることにあり、アンケートなどでもその評価は高い。京都、奈良、金沢などはその典型である。

これまで東京の都市づくりでは、歴史を活かした都市づくりという視点が弱かったように思う。幸い今、これだけの情報があるということは、まだかなりの歴史的ストックが遺されているということであろう。各地域でこれらを活かした街づくりが進めば、従来の東京とはイメージの違う、国際観光都市となりうるのではないかと思う。

(代表取締役 堀田 紘之)

●快適性の価格換算

公共交通利用促進策によりマイカーから公共交通への転換を検討しているなかで、マイカーと公共交通の旅行時間・経費を価格換算して利用者便益を比較評価するが、直接便益にはこの他にも現在の便益計算では計測されないものの一つとして快適性がある。

例えば、通勤時の列車内は非常に混雑しているので、マイカーを使った方が快適だといったことである。これを価格換算できないものかと考えたとき、一部のJR普通列車で導入されているグリーン車の利用状況を思い浮かべた。乗車券の他にグリーン券(平日50Kmまでは750円)が必要で、平日の通勤時には立席が出るほどの人気である。昼間の利用が少ないことを考えると単に座れるからという点だけではなく、通勤時の車内混雑が耐えられない人が多いのだろう。

この快適性を価格換算すると、鉄道の表定速度を50kmとして60分で750円、1分あたり13円になる。これを片道40分のマイカー通勤者にあてはめると快適性は520円になる。また指標は異なるが、最近話題のクールビズで軽装により外回りの営業マンが1日6時間をこれまでよりも快適に過ごせた場合には1日約5千円、夏場の3ヶ月では30万円に相当する。快適性にも様々な指標があり一概には言えないが数値としては非常に大きなウエイトを占めることになりそうだ。

人々の行動を考えるうえで時間や経費、省エネなどの計測可能な指標だけでなく、快適性も何らかの形で評価できればと思う。

(第一計画部 渡辺 明子)

●観光におけるユニバーサルデザインのすすめ

笠間市は茨城県の中央、水戸市の西側に位置する人口約3万人の市であ

る。鎌倉時代から城下町として栄え、笠間稲荷神社や地場産業の笠間焼等の多くの観光資源があり、多くの観光客が訪れるまちである。

平成17年6月4日・5日に、市内の弁天町において第3回「道の市」というイベントが開催された。このイベントは、「人にやさしい街づくり」をテーマとして、全国から集まった「モノづくり」の露店が道の上に並び、道を「交通の場」から「交流の場」にしようとする取組みである

この道の市の中で、「楽食」というテーマでいくつかの露店がならんだ。義歯(入れ歯)の方でも楽しく食べられるように、工夫された料理(切り込みを入れたたくあんなど)を出す店や、手が不自由な方など障害をもった方、一人ひとりにあわせてつくる笠間焼きのバリアフリー食器店などである。

また、笠間市にはお客の健康状態にあわせたメニュー、例えば糖尿病の方向けのメニューや、カロリー制限をされている方にあわせたメニューを出すフランス料理店もできている。まちなかの道路や公園のバリアフリー化も進めている。

今後数年で時間に余裕の出来た団塊の世代等、高齢者の観光客が増えることが予想されている。それらの人も楽しく観光できるよう、笠間市のよように全国で観光のユニバーサルデザインを進めることが、今後の観光振興の大きなポイントになると考える。

(第二計画部 内山 征)

アルメックホットニュース(平成17年6月15日発行)

////////////////////////////////////